

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 （政策）	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	2	名称	文化芸術活動の振興			
主担当部	魅力創造部		主担当課	文化振興課		部長名	山崎 貴浩
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	市民に、優れた芸術・芸能に関心を持っていただき、理解を深められるように多様な公演事業を開催する。また、積極的に文化活動に参加できるように協力し、参加発表の場を提供する。
---------	--

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	市民のニーズを考慮し、伝統芸能・大衆芸能・クラシックの多ジャンルの公演を実施している。また、文化的活動を発表できる場として多目的ロビーの活用を継続して行く。	近年、地域社会における文化政策は、文化芸術の持つ想像力、集客力、発信力等が経済や社会に多様な影響を与えることから街づくりの一環として取り組まれている。「文化芸術基本法」が施行され、国、地方の責務が示され地域の特性に応じた自主的かつ主体的な文化芸術施策が求められている。しかし一方では、多くの公立文化施設の共通課題ともいえる予算面で多くの制約を受けざるをえない現状に直面している。
これまでの成果	伝統型、芸能型、芸術型と幅広く自主事業を行った。また、文化活動を発表できる場として、ロビーコンサートを月1回行った。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① （成果指標）	自主事業公演の参加者数 （人）	3576	4500	3240	4500	ホール、展示 ギャラリー等
	施策指標② （成果指標）	貸館利用率（%）	35	50	35	50	
	施策指標③ （成果指標）						
	施策指標④ （成果指標）						
	施策指標⑤ （成果指標）						
コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 （直接事業費）（a）		256,465	272,396	252,622	279,828	
	歳入 （b）	受益者負担額	52,914	57,094	50,246	56,023	
		受益者負担額以外の 歳入（補助金等）	0	0	0	0	
	（a）－（b）＝一般財源		203,551	215,302	202,376	223,805	
	正職員	従事者数 （単位：人）	3.30	3.40	3.00	3.60	
		人件費（c）	18,833	19,404	17,439	20,927	
トータルコスト （a）＋（c）		275,298	291,800	270,061	300,755		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の 成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の 可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	市民参加型を含め、自主事業を積極的に行っている。ロビーコンサートは、発表の場として広く利用され好評を博している。貸館事業については、会議室、研修室の利用が高い。				
	市政全般に対する 貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	優れた文化芸術に触れることで、自らも参加したい、演じたいと思える心の芽生えや、子どもを対象とした芸術を親子で気兼ねなく楽しめることにより、これからの担う子どもの心に芸術を根づかせ、文化芸術による地域の活性化や地域文化の振興に繋がることから、質の高い芸術鑑賞の場を提供している。				

6. 施策の課題

この施策の課題	施設の経年劣化が顕著に現れており改修が必要となる。自主事業は、限られた予算内で広く市民のニーズに応じられるよう、ジャンル毎に厳選しているが、集客率を考えれば、知名度・人気度共に高い芸能人に限られ、費用が高くなる。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	市民の身近な文化の体験・創造の場や、文化を基盤とした個性と魅力ある地域づくりの拠点として、文化芸術活動を促進することにより、市民文化や地域文化の創造を図る。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	文化芸術事業の拠点として維持管理を適切に進め、魅力ある公演事業により文化芸術への関心を高め、幅広い年齢層を対象とした公演を実施します。また、文化・芸術活動を推進していく団体については、自立運営できるように支援します。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	文化振興課	かしはら万葉ホールの運営・維持管理 1. 貸館業務 2. 運営管理業務 3. 施設管理業務 4. 施設維持業務	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	A		
	かしはら万葉ホール貸館事業 (ソフト(任意))		234,681 (千円)					
2	文化振興課	市民のニーズを考慮したうえで多ジャンルの公演を行う。安価で良質な芸能観賞の場を市民に提供するため、情報収集を行い、HPやフリーペーパー、公共的広報誌など費用対効果の高い方法で広報を行う。①能舞音楽劇「義経記」②水谷千重子ありがとうコンサート③ズーラシアンプラス「音楽の絵本」クリスマスコンサート④ウイーンフィル奏者による室内楽⑤ロマンピアノ、他に公募によるロビーコンサート・ヨガ教室を実施。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B		
	文化ホール自主事業 (ソフト(任意))		16,062 (千円)					
3	文化振興課	団体を育成し、自立運営が出来るよう補助金を交付し、支援する。	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	C		
	文化芸術育成事業 (ソフト(任意))		1,879 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業											
P L A N	事務事業名	かしはら万葉ホール貸館事業									
	担当部名	魅力創造部		担当課名	文化振興課		課長名	芦高 博士			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	2	文化芸術活動の振興							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	文化ホール管理運営費									
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成		年度				
対象	かしはら万葉ホール利用者			事業の内容説明	かしはら万葉ホールの運営・維持管理 1. 貸館業務 2. 運営管理業務 3. 施設管理業務 4. 施設維持業務						
事業の目的	文化芸術活動を実践しようとする市民や団体等に活動機会を提供できるように、文化芸術事業継承のための拠点として整備し、市民の文化力の向上を支援することを目的とする。										
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
			説明	公立文化施設は地域の文化及びまちづくりの核となる施設であり公共性が高く、また収益性の面からも市が関与すべき事業である。							
	やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	文化芸術活動の振興が実現できない。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度			
				実績	計画	実績	見込み	見込み			
	成果指標	会議室等の利用率(利用日数/利用可能日数)		67	75	66	75	75			
	活動指標①	レセプションホールの利用率		50	65	50	65	65			
	活動指標②	ロマンシアホール利用率		35	40	34	40	40			
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			232,853	251,690	234,681	254,033			
		歳入(b)	受益者負担額			39,721	42,195	40,003	41,007		
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			193,132	209,495	194,678	213,026			
正職員		従事者数（単位：人）			1.20	1.20	1.05	1.50			
		人件費(c)			6,848	6,848	6,104	8,720			
トータルコスト(a) + (c)			239,701	258,538	240,785	262,753					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	会議等の利用率は高く、成果は出ている。利用率はほぼ同水準で推移しているが、より高い目標の達成を図る必要がある。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	市民の文化活動の場を提供しており、文化芸術活動の振興に貢献している。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	維持管理に要する費用は年々増加する傾向にあるが、可能な限り節減を行っており、これ以上のコスト削減を行なえば品質及び安全が低下するため、コスト低減はあまり期待できない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		施設の竣工以来、21年が経過しているため、経年劣化や耐用年数により建物の損傷、設備機器の不具合が多数発生する時期に到達している。利用者が満足し利用できるように、保守点検結果に基づく早期予防保全を実施する。そのことにより、利用者が施設を安全に利用でき、施設の有効活用を図ることができる。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	A
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する					
		説明	文化芸術事業継承のための拠点として運営・維持管理を適切に進める。						

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業					
P L A N 計 画	事務事業名	文化ホール自主事業							
	担当部名	魅力創造部	担当課名	文化振興課	課長名	芦高 博士			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	2	文化芸術活動の振興					
	総合戦略の位置付け	基本目標							
		基本的方向							
	行革大綱の位置付け	重点項目							
		項目							
		改革名							
	予算事業名	文化ホール管理運営費							
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
対象	市民等			事業の内容説明	市民のニーズを考慮したうえで多ジャンルの公演を行う。安価で良質な芸能観賞の場を市民に提供するため、情報収集を行い、HPやフリーペーパー、公共的広報誌など費用対効果の高い方法で広報を行う。①能舞音楽劇「義経記」②水谷千重子ありがとうコンサート③ズーラシアンプラス「音楽の絵本」クリスマスコンサート④ウイーンフィル奏者による室内楽⑤ロマンピアノ、他に公募によるロビーコンサート・ヨガ教室を実施。				
事業の目的	芸術的、文化的にすぐれた公演事業を伝統芸能、クラシック、大衆芸能など多ジャンルで企画実施し、市民が文化芸術に関心をもち、趣味を広げる契機にしよう。また市民が参加できる文化事業を企画実施し、文化活動の機会を増やし文化力を高めることを目的とする。								
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
	説明	市民の財産である本格的な文化ホールで芸術性の高い公演を実施することで、住民の文化意識を向上させ、積極的な文化活動の支援ができる。							
やめた場合の影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
	説明	劇場法などが制定され、文化芸術の振興を進めようとする国の施策に逆行することになり、市民が芸術性の高い文化に触れる機会を著しく減少させてしまう。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	公演入場者数（販売席数）		3,576	4,500	3,240	4,500	4,500	
	活動指標①	通年公演販売率（販売席数／発売席数）		68	55	67	55	55	
	活動指標②								
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）（a）		21,733	18,826	16,062	23,735		
		歳入（b）	受益者負担額		13,193	14,899	10,243	15,016	
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）						
		(a) - (b) = 一般財源		8,540	3,927	5,819	8,719		
正職員		従事者数（単位：人）		1.10	1.25	1.15	1.35		
		人件費（c）		6,278	7,134	6,685	7,848		
トータルコスト（a）+（c）		28,011	25,960	22,747	31,583				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()								
備考									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	予定どおり公演を実施した結果、評判は上々であった。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	市民の文化活動の場を提供しており、文化芸術活動の振興に貢献している。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	維持管理に要する費用は年々増加する傾向にあるが、可能な限り節減を行っており、これ以上のコスト削減を行なえば品質及び安全が低下するため、コスト低減はあまり期待できない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		費用対効果の高い手法（県民だより・HP・掲載無料の情報誌等）を選択し実施することで、公演にかかる経費を抑制する。クラシック公演では、住民参加型とすることにより、クラシックへの関心を高め、入場者数を多くする。大人から子どもまで幅広い年代層を対象とした公演を実施する。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	A
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する					
		説明	芸術性の高いものや住民参加型の公演を優先して実施。						

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 6日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	文化芸術育成事業								
	担当部名	魅力創造部		担当課名	文化振興課		課長名	芦高 博士		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	2	文化芸術活動の振興						
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	こども科学館管理運営費								
事業の開始年度	平成	24	年度	事業の終了予定年度	平成		年度			
対象	文化・芸術団体、市民			事業の 内容説明	団体を育成し、自立運営が出来るよう補助金を交付し、支援する。					
事業の 目的	文化・芸術団体は健全にしてかつ適切な事業活動を行うのが望ましく、文化・芸術は人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠であり、十分な活動を行えるように助成を行う。									
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	文化・芸術の振興を図るためには、団体の活性化が不可欠であり、団体が健全に事業を行えるよう支援するものである。								
	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	各団体の事業は縮小せざるをえなくなり、市民の文化活動が衰退していく。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	事業計画に対する執行率（実績額／予算額）			100	100	100	100	100	
	活動指標①									
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			1,879	1,880	1,879	2,060		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			1,879	1,880	1,879	2,060		
正職員		従事者数（単位：人）			1.00	0.95	0.80	0.75		
		人件費 (c)			5,707	5,422	4,650	4,360		
トータルコスト (a) + (c)			7,586	7,302	6,529	6,420				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考										

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	各団体が広く市民が参加できる事業を開催し、次世代への文化継承に積極的に取り組んでいる。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	文化・芸術の振興に少なからず貢献しているが、市民のニーズは多種多様なため、特定の団体への支援は今後見直す必要がある。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すこと により、コストや時間の低 減が可能か評価してくださ い	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
			説明	限られた財源の中で運営されているので、今以上の削減は難しい。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		文化団体の活動が心豊かな生活を実現するとともに、活力ある社会を構築し、市の文化芸術振興に重要であり、これらの団体が健全にしてかつ適切な事業活動を行う環境が望ましい。							
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度		D	
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	団体が将来的に自立運営できるよう、事業の見直しを含め、指導・助言を行う。。							